

令和元年度第1回木更津市郷土博物館金のすず協議会

- 1 日 時 令和元年8月30日（金）午前10時00分～正午
- 2 場 所 木更津市役所朝日庁舎 多目的室B
- 3 出席委員 委員長 中村哲
副委員長 荻野敬次
委 員 野口陽子・山田俊輔・畠山智宏・矢田博幸
- 4 出席職員 高澤茂夫教育長、堀切館長、稲葉副館長
- 5 傍聴人数 0名
- 6 議事内容 (1) 議題1 平成30年度事業報告について
(2) 議題2 令和元年度事業計画について
(3) 報告1 図書館協議会委員の選出について
(4) 報告2 空調改修工事について
その他 条例・例規の一部改定について

事務局：これより令和元年度第1回木更津市郷土博物館金のすず協議会を開催いたします。本日は委員全員が出席でございます。木更津市審議会等の会議の公開に関する条例第3条により、本会議は一般公開となっておりますが、傍聴人は0人です。会議開催にあたり、中村委員長よりご挨拶申し上げます。

—中村委員長挨拶—

続きまして、高澤教育長からご挨拶申し上げます。

—教育長挨拶—

事務局：それでは、お手元の会議次第にそって会議を進行させていただきます。ここで、誠に申し訳ありませんが、高澤教育長は他の公務のため、ここで退席させていただきます。ご了承をお願いいたします。

—教育長退席—

それでは委員長には議長として議事進行をよろしくお願いいたします。

議長：それでは議題1 平成30年度事業報告について 事務局から説明をお願いします。

—事務局、事業報告について資料内容のとおり説明する。—

議長：議題1について、ご意見質問等なにかございますか？

—質疑無し—

議長：それでは議題2 令和元年度事業計画について事務局より説明をお願いします。

—事務局、事業報告について資料内容のとおり説明する。—

委員（山田）：リニューアルについてうかがいます。デジタル情報の活用がこれからの博物館には求められていると思いますが、今回の常設展リニューアルにデジタルコンテンツの利用をどのように考えているか、何かあれば教えていただきたい。

事務局： 検討しているものは、Wi-Fiを設置してスマートフォン等を利用した多言語化対応を考えております。ただ、予算が関係するものなので、今後の財政や企画等々と市役所の中での協議ということになります。

常設展の中身が固まった令和3年夏予定のリニューアルオープンの翌年、令和4年度に委託できる計画で進めたいと館内では検討しております。

委員（山田）： 4言語化ということですね。多言語化は2020年以降の博物館に求められている要件です。では、リニューアルで模型を作られるのも一つの方法ですが、バーチャルリアリティーを利用した展示方法、資料をデジタル撮影してゴーグルをかければVRで見えるようにする方法がありますが検討されていますか？

金鈴塚をイメージする一例として石室内のVR、あるいは3次元化したデジタル3Dプリンターで出力するなど考えて良いと思いますが。

それから他館の資料で実物資料を持ってきづらいもの、例えば千葉県印旛郡栄町の浅間山古墳資料などを3次元化した複製品、あるいはVRを使った展示などを導入した方が常設展示の理解は深まっていくと思われま。

今後はおそらく3次元の著作権・権利の問題が生じるとは思いますけれども、現物資料以外のデジタルコンテンツを加工して常設展にうまく利用する方法を、リニューアルする前に少し考えておいた方が良いと思いますが。

事務局： ありがとうございます。VRの意見はございましたが、予算がかなり突出してしまい、博物館で通常獲得できる予算としては難しいと判断し、抑えてしまった経緯がございます。

今年から新規4か年計画が始まっておあります。リニューアルの事業に関しては、まだ協議中で基本計画に採択されていません。館が休館中であることを利用してリニューアルを検討していますが、もう一つの理由として木更津市の学芸員として勤務してきた職員のほとんどが、あと約5年前後で定年を迎えることがございます。

今現在新規専門職員の募集はありませんので、5年後には突然世代交代となります。ですので、この4年間で、我々が今まで蓄積してきた情報を活用して展示に反映させないと、次のリニューアルの機会はしばらくないと考えております。定年後に再任用でまた学芸員を続けているということも考えられますが、体力的には今が最後の機会と考えております。山田委員がおっしゃったように、色々な展示方法を取り入れたいとは思っております。その中でもう一度検討させていただければ思っております。

議長： ありがとうございます。色々考えても、結局最後は予算が問題となることは昔からのことで、私が現役のときにも経験があります。予算は解説パネル等で使い切ってしまう、結局検討したほとんどが実現できませんでした。

ただデジタルを活用するにしても予算をどこに計上するかを考えるためには、まず人員の育成が入ってくるとは思います。人員の育成の観点で見ると、新人を採

用してない。するとほとんどが次世代の職員へ継承されるべきものが途切れてしまう。だからこれから10年位の間に、そういうところをうまく回さないといけない。千葉県は中央博物館設立時にそういうことを考えて、収蔵から人員の配置・展覧会等事業の実施を、IT・Aも含めて、先取りして計画したのだけれど、結局最後は予算的な問題でうまくいかなかった。だからそういうようなことを考える時は、今出来ることにすぐ予算をつけて何かしようではなくて、この分野のどれかをきっちり洗いなおして、絞込む。山田委員のご意見もそういう趣旨ではないかと思います。絞り込まずに広げてしまっただけでは何も出来なくなる気がします。金のすずは、立地のロケーション・資料・博物館の歴史も、一番良いと思います。だからひとつ、先駆者としての役目を果たしてもらえればと思います。以上です。

今事務局から説明がありましたけど、そのほかに何かございますか？なければ、次の報告1、図書館協議会委員の選出についてご説明願います。

—事務局 報告1について説明—

議長：何かご意見ありますか？

委員（荻野）： たまたま私の会社が図書館の前にあるので、休業日に図書館でイベントがあると、駐車場を開放したりと縁がありますので引き続き担当させていただきました。

議長： よろしくお願いたします。それでは次に移りたいと思います。報告2空調改修工事についてご説明願います。

—事務局 報告2について説明—

議長：何かご質問ございますか？ないようですので、その他の条例・例規の一部改正についてご説明願います。

—事務局 その他 条例・例規の一部改正について説明—

議長：何か質問ございますか？ないようでしたら、他になにかご意見・ご質問ございますか。

委員（山田）： 専門職員の採用は難しい状況ですか？

事務局： 毎年協議をしていますが、今年度も専門職員の採用試験は行われませんでした。定年後も現職員が再任用で残るだろうと思われているようにも感じられます。しかし、若い人が入らないと体力的に厳しいものがありますし、我々も勉強をしているつもりではありますが、新しい知識を見つけた人が入らないと職場が活性化しないと考えています。

事務局（館長）： 周辺市では少しずつ専門職を採用していますが、木更津市では今のところありません。学芸員募集で一般職への移動も可ということで協議していますが難しい状況です。ただ、専門職員の採用はありませんが、一般職採用で学芸員有資格者はいるので、優先的にまわして欲しいとは伝えています。

議長： 専門職であっても、事務が出来て一人前なので、採用してすぐに博物館ではな

く、本局で数年間事務経験を積むほうが将来の職員育成のためにはなる。市全体がわかる博物館職員をつくるのが大切でしょう。そのうえで博物館に有資格者を優先的に配置してもらえるように協議を継続していくことが大事ではないか。

委員（山田）：たとえばリニューアルや空調改修工事に予算を投資しても、それを継続的に維持管理していく職員が育たなければ意味が無い。あと5年くらいでほとんどの職員が定年ということでは、博物館に限らず継続性が保たれない施設への今の資本投資が無駄になりかねません。30年40年先を見据えて、人材を確保する必要性が急務ではないでしょうか。人材のバランスが崩れると何にでも当てはまることだと思いますけれども、継続性を維持することは厳しくなるでしょう。

議長： 職員が切れることは一番の無駄ですよ。数年に少人数でいいから、採用して少しずつ人材を確保育成していかないと組織は保てないと思います。リニューアルした後では厳しいと思います。言い続けることが大事だと思いますので、大変でしょうが今、採用について協議を続けていかないといけないと思います。

それではですね、他になければ事務局になにかございますか？

事務局： ございません。

委員長： それでは、議事がすべて終了いたしましたので、事務局にお返しいたします。

事務局： 皆さまにはご多用のところご出席いただき、誠にありがとうございました。今後とも当館の博物館運営につきまして、よろしくご指導ご鞭撻いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。これをもちまして、令和元年度第1回郷土博物館金のすず協議会を閉会いたします。